

研究主題 児童生徒の「生涯学習力」を高める教育課程の編成

研究の概要

1 研究主題設定の理由

(1) 私の応援計画～個別の教育支援計画の活用～

本校では、個別の教育支援計画を「私の応援計画」と名付けて教育課程編成の中心に据え、関係者と連携した支援を行うためのツールとして積極的に活用している。この計画は、児童生徒が「夢」や「願い」、「目標」を教師や保護者との対話の中から見だし、自分のよさや長所に着目しながら、本人が主体となって作成するものである。「私の応援計画」作成の過程で聞き取った「願い」から、児童生徒の「教育的ニーズ」を把握し、その達成を目指しながら、本人を主体とする教育課程の編成を行っている。この実践を通して得られた成果は次の3点である。

①適切な「教育的ニーズ」の把握

児童生徒の「思い」「願い」「夢」「なりたい自分」を教師が把握することで、児童生徒主体で教育課程を編成しようという意識が高まった。学ぶべきことを先に決めるのではなく、児童生徒が学校の教育に何を求めているかという視点で指導内容を選定、配列することで、本人主体の教育課程の編成が可能になった。学部ごとに意思表出の実態とライフステージに応じた工夫をしながら、児童生徒の願いを聞き取り、「教育的ニーズ」を把握している。

②「教育的ニーズ」から授業へ

「教育的ニーズ」を授業につなぐため、個の「教育的ニーズ」と学習指導要領の内容を考慮しながら指導計画を作成し、教科等横断的な視点、学部間のつながりについて検討をすることが求められた。教務部と研究部が一体となった「カリキュラム・マネジメント推進プロジェクト」を設置し、定期的に指導計画と指導内容の見直しを行ったことで、個々の教師が主体的に教育課程編成に参画できた。

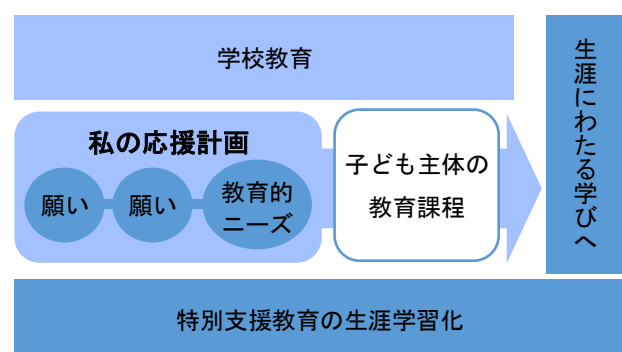
③学びの主体は児童生徒

「私の応援計画」を活用した教育課程編成の新しいシステムが構築されたことで、児童生徒自身が学びの主体者であるという意識が高まった。児童生徒が「夢や願い」「目標」を自分の言葉で発信する機会が増え、日常的に「こんな自分になりたい」「大人になったらこんなことがしたい」という「願い」を話題にするようになった。

(2) 社会的背景

平成29年4月に文部科学大臣メッセージ「特別支援教育の生涯学習化に向けて」が出され、障害者の生涯を通じた多様な学習活動を支援するための取組が開始された。学校卒業後における障害者の学びの推進に関する有識者会議報告「障害者の生涯学習の推進方策について―誰もが、障害の有無にかかわらず共に学び、生きる共生社会を目指して―」では、学校教育における学びと学校卒業後の学びを接続し、生涯にわたって学び続けられるようにすること

の重要性や、学校教育から卒業後の学びに円滑に移行するために、個別の教育支援計画活用の仕組みを強化する必要性などが述べられている。以上のことから、本校における個別の教育支援計画「私の応援計画」の活用が、生涯にわたる学びのためのツールとなる可能性があると考えた。



(3) 本校のニーズより

言葉で気持ちを伝えることが難しい児童生徒の場合も、保護者や教師が「思い」を読み取りながら「願

い」を把握することで、児童生徒主体の指導内容を設定することができ、自ら学びに向かう姿が多く見られるようになった。児童生徒自身が学びの主体であることを自覚し、何を学びたいか語れるようになってきたことは、生涯にわたって成長し続けるための力を育む素地となる。

在学中に「私の応援計画」をツールとして活用し、関係機関との連携を図りながら、卒業後の豊かな生活につなげていきたい。そのために、生涯学習の視点から、本人を支えてくれる様々なヒト・モノ・コトと継続的に関わるための知見を一層深めたいと考えた。

本人、保護者、教師、地域、関係機関が一体となって、卒業後の社会生活を見据えた「生涯学習」という視点での教育活動を充実させるためには、学校生活の中でどのような力（資質・能力）を育むべきか見極めることが重要である。また、学校における教育資源にはどのようなものがあるか整理し、卒業後も活用できるような新たな資源を開拓する必要もある。さらに、児童生徒が自分の長所を生かし、得意な方法で十分に学び、興味・関心を広げたり、知的好奇心を満たしたりする経験を重ねることで、生涯にわたって意欲的に学びに向かおうとする力が育まれるのではないかと考えた。

以上の観点から、これまでの研究の成果を基に、児童生徒が生涯にわたって学びに向かい、成長しようとするための力を身に付けてほしいと願い、本研究主題を設定した。

2 研究の内容と方法

(1) 研究仮説

「生涯学習」につながる視点をもった教育課程を編成し、児童生徒個々のよさや長所に着目した実践を行うことで、主体的にヒト・モノ・コトに関わり、生涯にわたって学びに向かい、成長しようとする力（生涯学習力）を高めることができるだろう。

(2) 今年度の研究内容と方法

①生涯学習についての研修会の実施

- ・校内研修会（秋田大学 原 義彦 教授、秋田県生涯学習センター 主任社会教育主事 柏木 睦 氏）
- ・夏のセミナー（講演：あべけん太氏 ダウン症のタレント）
- ・冬のセミナー（講演：井口啓太郎氏 文部科学省障害者学習支援推進室）

②生涯学習力の定義付け

- ・生涯学習につながる力を明らかにし、教育課程編成や授業づくりに反映

(3) 3つのワーキンググループによる研究

- ・教師が関心のあるテーマのワーキンググループを選び、主体的に調査・研究を実施



リサーチグループ

生涯にわたって主体的に学び続けるために、学校で学んだことの何が活用され、何が必要かを明らかにするため、卒業生を対象にした調査を行い、結果を考察する。



資源活用グループ

生涯学習を行うには、地域資源の活用が不可欠である。本校が関わっている地域資源を整理するとともに、さらなる活用のために何が必要かを考察する。



MIグループ

自ら学びに向かうには、得意な学び方で十分に学習した経験が重要である。児童生徒個々のよさや長所に着目し、「MI（マルチ知能）」を活用した授業づくりを行う。

(4) 研究結果の発信

- ・冬のセミナー、研究紀要、ホームページ等で発信

(5) 次年度の教育課程編成に向けて

- ・生涯学習力を高めるための教育課程編成及び授業づくりのポイントの明確化
- ・次年度に実施する教育課程編成の方策の具体化